

2026 年度



東京都立大学

学問の力で、
明日を創る。

経済経営学部

Faculty of Economics and Business Administration

人間の行動や社会・ビジネスの 発展の源泉を的確にとらえる力を 伸ばします。

教育方針

今日の経済活動は、さまざまな要因によりその姿を変えつつあります。社会が秩序を保ちながら進化・発展していくためには、二つの鍵となる調整メカニズムが重要な役割を果たします。一つは、個人の諸行動を価格の変動を通じて自動的に調整する「市場のメカニズム」、もう一つは、経営者が目標と計画に基づいて世の中の利害関係や行動を調整する「組織のメカニズム」です。前者を中心に社会を考察していくのが経済学であり、後者が経営学であるといえます。これらは、よりよい社会や組織を実現するための両輪であり、さまざまな問題を解決するための「政策科学」なのです。本学部では、経済学と経営学の体系的なカリキュラムを通して、教養教育と専門性の高い先進教育を展開します。そして、社会や組織のリーダーとして、社会全体を望ましい姿に導いていく政策立案能力と問題解決能力の涵養を目指します。

教育の特徴

POINT

1

2 年次進級時にコースを選択

1 年次に広く経済学と経営学の導入科目を学び、2 年次進級時に経済学コースか経営学コースを選択します。いずれのコースでも経済学と経営学をともに学ぶことができ、幅広い科目を自由に履修できます。

POINT

2

少人数教育により徹底した専門教育を実現

2 年次に「2 年次専門セミナー」を開講、3 年次からはほとんどの学生が演習（ゼミナール）に参加。1 学年平均 6 名程度の少人数で専任教員による親身の教育を施します。4 年次に卒業論文をまとめます。

POINT

3

第一線の研究者による高度な授業

専任教員はいずれも丸の内サテライトキャンパスの大学院において経営学・経済学・ファイナンスの分野で指導を担当している第一線の研究者であり、最新の研究を反映させた授業をしています。



履修モデルとカリキュラムの特色

1 年次には広く経済学と経営学の導入科目を学び、2 年次進級時にコース選択をして専門的に学びます。

経済学コース

卒業（学位の取得）に必要な単位総数は 124 単位です。

区分	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
基礎科目群	基礎ゼミナール、言語科目、情報科目、理系共通基礎科目、保健体育科目、キャリア教育科目			
教養科目群	都市・社会・環境、文化・芸術・歴史、生命・人間・健康、科学・技術・産業、総合ゼミナール（2 年次以上履修科目）			
基盤科目群	入門ミクロ経済学、入門マクロ経済学、経済史・思想入門、統計学Ⅰ、統計学Ⅱ、経営学入門、会計学入門			
専門教育科目群	ミクロ経済学 1 マクロ経済学 1 金融論 1 基礎数学 1 基礎数学 2 データ解析 経済史概論 日本経済史概論 経済思想概論	ミクロ経済学 2 マクロ経済学 2 金融論 2 ゲーム理論 1 ゲーム理論 2 計量経済学 1 計量経済学 2 日本経済論 1 日本経済論 2 企業経済学 金融経済学 日本経済史 現代日本経済史 アジア経済史 ファイナンス 財務会計論 経営科学概論 2 年次専門セミナー	応用統計学 国際経済学 国際金融論 公共経済学 労働経済学 産業組織論 コーポレートファイナンス 財政学 西洋経済史 都市経済史 現代アジア経済史 金融工学 財務諸表論 経営科学 1 経営組織論 財務戦略論 経営戦略論 演習	経済学説史 競争戦略論 金融リスク論 財務情報分析論 経営科学 2 経営行動論 意思決定論 経済経営特別講義 経済学コース特別講義 外国書講読 演習、卒業論文

必要単位
【二十六単位以上】

必要単位
【七十単位以上】

①経済理論を体系的に学ぶ、②経済活動の発展を歴史的にとらえる、③現実のデータで理論を検証する、という 3 要素を備えたカリキュラムを編成しています。1・2 年次には、教養科目や専門教育科目の導入部である基盤科目を履修した上で、経済学や経済史を中心とした基礎的な専門教育を配置し、それぞれの問題意識や興味、目標に即して設定した研究テーマの専門性を高めていきます。具体的には、日本経済、国際経済、金融、企業行動、経済理論、経済データ分析、経済史、ファイナンス、数学・統計に関する講義を提供します。3・4 年次に参加できる演習（ゼミナール）では教員 1 人に対して学生は 1 学年平均 6 人程度という少人数制を徹底、専任教員のきめ細かい指導のもとで理解を深め、4 年次に卒業論文としてまとめあげます。

経営学コース

卒業（学位の取得）に必要な単位総数は 124 単位です。

区分	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
基礎科目群	基礎ゼミナール、言語科目、情報科目、理系共通基礎科目、保健体育科目、キャリア教育科目			
教養科目群	都市・社会・環境、文化・芸術・歴史、生命・人間・健康、科学・技術・産業、総合ゼミナール（2 年次以上履修科目）			
基盤科目群	経営学入門、会計学入門、入門ミクロ経済学、入門マクロ経済学、経済史・思想入門、統計学Ⅰ、統計学Ⅱ			
専門教育科目群	経営戦略論 経営組織論 財務会計論 原価計算論 経営科学概論 ファイナンス データ解析 基礎数学 1 基礎数学 2 ミクロ経済学 1	ヒューマン・リソース・マネジメント 組織行動 マーケティング・マネジメント マーケティング・コミュニケーション 管理会計論 経営科学 1 金融工学 コーポレートファイナンス 企業経済学 ミクロ経済学 2 マクロ経済学 1 金融論 1 ゲーム理論 1 ゲーム理論 2 財政学 2 年次専門セミナー	財務戦略論 競争戦略論 意思決定論 経営行動論 ビジネスイノベーション 財務諸表論 経営科学 2 マーケティング・サイエンス マーケティング・リサーチ 金融経済学 産業組織論 マクロ経済学 2 金融論 2 計量経済学 1 計量経済学 2 日本経済論 1 日本経済論 2 経済史概論 演習	テクノロジー・マネジメント 経営数理 経営史 財務情報分析論 会計制度論 金融リスク論 応用統計学 国際金融論 経済経営特別講義 経営学コース特別講義 外国書講読 演習、卒業論文

必要単位
【二十六単位以上】

必要単位
【七十単位以上】

企業やビジネスについての理解を深める内容の講義を重視します。1・2 年次には、教養科目や専門教育科目の導入部である基盤科目を履修した上で、経営学、経済学、経営科学、会計学などの基礎的な専門教育を配置し、それぞれの問題意識や興味、目標に即して設定した研究テーマの専門性を高めていきます。具体的には、経営戦略、組織・管理、財務会計、管理会計、経営科学、ファイナンス、数学・統計に関する講義を提供します。3・4 年次に参加できる演習（ゼミナール）では教員 1 人に対して学生は 1 学年平均 6 人程度という少人数制を徹底、専任教員のきめ細かい指導のもとで理解を深め、4 年次に卒業論文としてまとめあげます。

経済学コース

Economics Program

経済現象の実態・法則の解明を通して
経営や行政に指針を与えます。



■ コンセプト

経済学コースでは、消費者と企業の行動を対象にした「ミクロ経済学」、国の経済の仕組みを学ぶ「マクロ経済学」、経済データを分析する「計量経済学」、さらに経済と経済学の歴史を学んだうえで、世界と日本の経済に関する幅広い知識とその仕組みについて、理論・データ・歴史の視点から理解する力を養います。社会・経済のさまざまな問題を解決するための能力を培うことで、将来のあるべき政策を立案し、国・自治体、民間企業に適切な指針を与えるリーダーとして、あるいは深く経済学を探究する研究者として活躍する人材を養成します。

■ 求める学生像

①経済学について体系的・理論的に学びたいと考えている人、②経済の原理を解き明かすための勉強に取り組みたい人、③大学で身につけた知識や知見を社会活動に活かし、社会に貢献したいという気持ちのある人、④ゼミナールや講義、その他大学における活動を通して、仲間と交流することにより、自己を研鑽しようという意欲にあふれる人、を歓迎します。

■ 分野紹介

理論経済学

Theoretical Economics

- ・ミクロ経済学 1・2
- ・マクロ経済学 1・2
- ・ゲーム理論 1・2 など

応用・計量経済学

Applied Economics and Econometrics

- ・日本経済論 1・2
- ・公共経済学
- ・企業経済学
- ・計量経済学 1・2 など

経済史・思想

Economic History

- ・経済史概論
- ・日本経済史
- ・西洋経済史
- ・アジア経済史 など

■ 授業紹介

ゲーム理論 1

渡辺 隆裕 教授

ゲーム理論は、企業の競争や国家の交渉など、2人以上の「プレイヤー」の競争や協力を「ゲーム」と考え、数学のモデルで分析する学問です。経済学や経営学のさまざまな分野で使われる基本の理論です。講義では、身近な出来事を題材にし、時にはそれを実験しながら、ゲーム理論の基礎を学んでいきます。



計量経済学 1

暮石 渉 教授

計量経済学では、統計や計量的手法を駆使して、経済現象を解析し、理論とデータを結びつける方法を学び、経済データの分析や予測、政策評価を行うスキルを身につけます。実践的な演習を通じて、計量モデルの構築や統計ソフトウェアの使い方も学びます。計量経済学の知識は、産業・金融・政策分析など、さまざまなキャリアにおいて役立ちますので、ぜひ積極的に学んでください。



経済史概論

岩間 俊彦 教授

モノやサービスを作り、それらを分配しながら、私たちは豊かさを実現してきました。このような経済活動で最も重要なことは何ですか。情報技術の形成ですか、産業革命ですか、農業の誕生ですか。この授業では、当たり前と考えられている過去の経済社会の特徴を再考し、学生と教員の対話を交えながら学びます。



■ 在学生インタビュー

Q. 経済学コースを選じた理由

A. 経済活動で起こる様々な課題を数理モデルを用いて解析し、判断できることが面白いと思ったからです。経済学で大事な「効用の最大化」「需給バランス」の概念が、グラフの微分で求められることにとても感動しました。

Q. 経済学コースの魅力

A. 経済学系の授業はもちろん、経営に関する授業と合わせて取ることで新たな視点からの発見を得られるところです。マーケティングの講義では数理モデルを使って得られたデータから、どのような戦略を立てるかといった実際の企業での応用例を学ぶことができました。

Q. 受講して面白かった科目

A. 経営科学の講義です。この講義では1年生後期に基礎的な最適化問題の手法を学び、2年生で在庫管理や待ち時間、最短経路などの応用例を学びました。「経営科学」という名前ですが現実の問題を数理モデル化して分析するという経済学的手法を使うところ、また限られた条件の中で最適な状態を見つけるところが、とても実践的で面白い講義でした。さらに講義の中でシミュレーションやアルゴリズムについても少し触れていたため、問題を解くときの参考になりました。

Q. 成長を実感したこと

A. 自分の考えや行動に根拠ができ、自信を持てるようになったことです。経済経営学部の講義を通して先人の考え方や科学的な手法を学んだことで、客観的なデータから結論を導くことができました。また、講義以外の場面でも自分がなぜそうしたいのかを相手に説明するときに、自信をもって言えるようになりました。この、「根拠を元に相手に説明できる力」は将来社会で大切になってくる力だと思うので、大学で学ぶことができてよかったです。

Q. 将来の夢

A. 大学で学んだ手法を活かして、過去のデータから企業の今後の戦略を立てる仕事をしてみたいです。そのために、ゼミでのプレゼンや自主学習などを通して分析力や人前での発表の経験を積んでいきたいと思います。

経済学コース

高橋 祐造 さん
(2023 年度入学)



2 年次の時間割

		月	火	水	木	金
1	前期	Practical English III		ゲーム理論 1		日本経済論 1
	後期	Practical English IV	経済思想概論	国際金融論	現代日本経済史	
2	前期	西洋経済史		経営科学 1		経営科学 2
	後期	情報リテラシー II B(C 言語)	基礎数学 2	金融工学		
3	前期		企業経済学	マーケティング・マネジメント		デザインと生活
	後期	基礎微積分	2 年次専門セミナー (経営科学)	財務会計論	データ科学のための線形代数	
4	前期	行動経済と幸福の経済学	公共経済学			ミクロ経済学 2
	後期	マクロ経済学 1	ドイツ語 II			

■ 演習（ゼミナール）の主なテーマ

【理論経済学】

企業経済学とコーポレートファイナンス／メカニズムデザインとミクロ経済学／ゲーム理論とモデル分析 など

【応用・計量経済学】

日本経済の現状と課題／経済成長と金融論／統計理論と R によるデータ解析／数学・ファイナンスと金融証券市場 など

【経済史・思想】

グローバル化・都市・格差から見た世界経済の歴史／アジア経済の歴史と現在／経済学の古典から経済と社会を考える など

■ 演習（ゼミナール）紹介

計量経済学

暮石 渉 ゼミナール



学生は最新の経済学研究論文に触れます。まずは一般向けのダイジェスト版記事を用い、興味のある図表を各自が選び、統計学や計量経済学の観点から分析します。その後、ミクロ経済学やマクロ経済学の議論を踏まえ、日本の状況への応用を検討し、データ収集や実証分析を行います。最終的には卒業論文の執筆につなげます。

経済思想史

金子 創 ゼミナール



経済学史において古典とされている文献を輪読し、それらが時代を超えて読み継がれてきた理由や現代社会への示唆を探ります。文献の歴史的背景との関連性を分析するとともに、経済学以外の隣接分野の知見を援用することで深堀りを目指します。また、その過程でそれぞれのテーマを明確化し、卒業論文執筆を準備します。

Student Voice

東山 遼哉 さん (2022 年度入学)

ゼミの魅力は、参加者同士の距離が近く、活発な意見交換ができる点です。教授とのコミュニケーションも密になり、個々の理解度に応じた指導が受けられます。また自分の好きなテーマで研究ができる点も魅力です。少人数だからこそ、自由な発言が促され、より深い学びを得ることができます。



Student Voice

田中 結 さん (2022 年度入学)

私たちのゼミでは経済学説を扱っていますが、過去の言説ということにとらわれず、普段の私たちの生活に結びつけて考えることを意識しています。少人数であるためコミュニケーションが取りやすく、お互いの意見を交換しながら理解を深め合える点がゼミの魅力だと思います。



経営学コース

Business Administration Program

企業をはじめとした組織の役割・戦略を科学的に研究・考察していきます。



■ コンセプト

経営学は、企業内部の仕組み、戦略的な意思決定、企業と社会との関係を学び、企業組織や産業社会の構造やその行動のメカニズムを明らかにし、社会と調和した企業経営のあり方を模索する学問です。経営学コースでは、企業やビジネスがどのように成り立ち、いかにして行動するかを理解し、科学的に分析する能力を身に付けることを目標にしています。経済のグローバル化や情報の高度化、人口構造・生活様式の変化など、大きく変容する現代社会において、皆さんが活躍するための必要不可欠な能力を磨いていきます。将来は企業を動かすリーダーとして、あるいは深く経営学を探究する研究者として活躍する人材を養成します。

■ 求める学生像

①企業や経営について体系的・理論的に学びたいと考えている人、②国際的な視点から企業経営を考えてみたい人、③新規事業を起こしたいというベンチャー精神にあふれた人、④数値情報による科学的な企業活動・意思決定を学びたい人、⑤大学で身につけた知識や知見を社会活動に活かし、社会に貢献したいという気持ちのある人、⑥ゼミナールや講義、その他大学における活動を通して仲間と交流することにより自己を研鑽しようという意欲にあふれる人、を歓迎します。

■ 分野紹介

経営戦略

Corporate Strategy

- ・経営戦略論
- ・財務戦略論
- ・テクノロジー・マネジメント など

経営組織

Management Organization

- ・経営行動論
- ・組織行動
- ・意思決定論 など

経営科学

Management Science

- ・経営科学概論
- ・経営科学 1・2
- ・経営数理 など

マーケティング

Marketing

- ・マーケティング・マネジメント
- ・マーケティング・サイエンス
- ・マーケティング・リサーチ など

会計学

Accounting

- ・財務会計論
- ・管理会計論
- ・財務情報分析論 など

■ 授業紹介

マーケティング・サイエンス 中山 厚穂 教授

顧客データ分析は企業成長に不可欠です。マーケティング・サイエンスでは、消費者の意識・行動データを数値で捉え、顧客の行動ストーリーを解明し、得られた知見から具体的な戦略の立案と実行の方法を、実践的なデータ演習を通して学びます。社会で活躍するための分析力と論理的思考が身につきます。



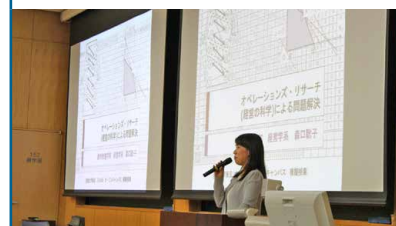
組織行動 佐藤 佑樹 准教授

組織行動では、モチベーションやリーダーシップ、エンゲイジメントといった、働く人の心理や行動にかかわる身近なテーマを学びます。この授業を通じて、将来、職場で直面する可能性のある問題の原因や解決へのヒントを学ぶとともに、問題解決に役立つ論理的思考力を身につけることを目指します。



経営科学概論 森口 聡子 教授

経営科学概論では、経営科学の手法のうち、ある制約のもとで目的関数を最大または最小にする数理計画問題を中心に学習し、その解法について本質的に理解します。また、実際の問題を数理モデルにモデル化し、最適解を求めるグループ学習を通して、経営活動において生じる問題を科学的に意思決定する能力や論理的思考力を育成します。



■ 在学生インタビュー

Q. 経営学コースを選択した理由

A. 生産、流通、消費など経済活動の重要な役割を担う企業の経営について追究したいと考えていたため、経営学コースを選択しました。経営戦略や経営組織、マーケティングなど様々な分野から企業やビジネスについて学ぶことができ、幅広い視点で経営について学べると感じます。

Q. 経営学コースの魅力

A. 経営学コースでは実際の企業や商品を実例として用いた講義が多く、楽しく理解を深めることができる点が魅力だと思います。また、経済学に関する講義も履修することができるのも魅力です。ゲーム理論やミクロ経済学などの理論経済学、各地域の経済史を学び経済知識を身につけることができました。

Q. 受講して面白かった講義、その中身と理由

A. マーケティング・マネジメントです。顧客ニーズを元にした製品開発、メディアを通じた広告活動、百貨店やコンビニといった販路の確保、特売やポイント制を通じた価格戦略などの日常的な事例を踏まえながら、マーケティングの理論について学ぶ講義です。身の回りの商品や企業のマーケティング例を考え、他の人の考えを聞くことで視野を広げながらマーケティングの知識を身につけることができました。

Q. 成長を実感したこと

A. 成長を実感したことは、物事を論理的に考える力が身についたことです。大学の講義では、グループワークで自分の意見を話したり仲間の意見を聞く場面が多々あります。様々な意見を踏まえ、問題解決に向けて筋道を立てて考えることができるようになりました。ビジネスにおいても役に立つ力だと思います。

Q. 将来の夢

A. 日本の経済や経営に貢献できる仕事に就きたいです。自分に適した職種や業界を見つけるため、企業の情報を集め自己分析を頑張りたいです。また、ゼミ活動を通じて専門知識はもちろん、コミュニケーション能力や主体性を身につけていきたいです。社会に出た際、大学生活で身につけた知識やスキルを発揮したいです。

経営学コース

飯島 美咲 さん

(2023 年度入学)



2 年次の時間割

		月	火	水	木	金
1	前期	Practical English III	経済学説史	ゲーム理論 1	司法・犯罪心理学	
	後期	Practical English IV				
2	前期	西洋経済史	日本語と日本文学 B	ヒューマン・リソース・マネジメント	現代青年と心理	
	後期	財政学	産業組織論	金融工学		経営学コース特別講義 (7アクション産業の演出)
3	前期	ビジネスイノベーション	意思決定論	マーケティング・マネジメント	財務戦略論	
	後期		経営史	マーケティング・コミュニケーション	労働経済学	テクノロジー・マネジメント
4	前期	人間・文化・社会		管理会計論		
	後期			財務情報分析論		国際金融特別講義 (グローバルデータ分析入門)

■ 演習（ゼミナール）の主なテーマ

【経営戦略・マーケティング】

経営戦略、財務戦略、マーケティング、イノベーションの理論を実践に結びつける演習／ビジネスプランニング、アンケート調査、インタビュー、財務分析、テキストマイニングなどの研究方法 など

【経営組織・会計】

企業の戦略的成長とそれを実現する組織革新／人間の意思決定の特質／企業会計制度の構造とメカニズム／管理会計と企業のパフォーマンス など

【経営科学】

数理モデル・最適化理論などの経営科学の手法を用いた科学的な問題解決・業務改善・意思決定／ファイナンス理論による金融市場や投資・財務活動の分析 など

■ 演習（ゼミナール）紹介

経営行動論

加藤 崇徳 ゼミナール



経営組織や経営戦略について、専門書を読み、グループで研究をしています。企業経営を理論的に考察し、質的にも量的にも実証できる力を養います。夏と冬には他大学とのインゼミも行っており、合宿で他大学の学生と交流を深めたり、プレゼンのスキルを身につけられるようにしています。

Student Voice

栗栖 和太 さん (2023 年度入学)

前期は社会科学の基本的な考え方や文献を学びながら、少人数での演習形式の活動にも取り組みます。身近な社会現象をテーマに、観察や分析を通して考察を深める経験ができます。教員との距離も近く、学びや進路について気軽に相談しやすい環境です。後期には学外との発表機会もあり、実践的なスキルを身につけることができます。



経営戦略論

松田 千恵子 ゼミナール



経営戦略に関し、理論と実践の双方をしっかりと身に付け、将来、経営に携わる基礎力を養います。グループワーク等を通じて議論や発信する力、プロジェクトマネジメントも学びます。学外のコンクール参加や、企業の方々とは直接触れ合える機会も多いゼミです。

Student Voice

松竹 仙里 さん (2023 年度入学)

松田ゼミの魅力は、主に経営戦略や事業戦略を中心に理論的基礎と実践的知識をバランスよく習得できることだと思います。グループで活動することが多く、先輩や同期と良い雰囲気の中で切磋琢磨してゼミを作り上げることができ、就活に活かせることも良い点だと思います。



国際交流・留学プログラム

本学は、協定校への留学、海外短期研修、海外インターンシップ、留学英語講座、グローバルな視点を養う講演会等、留学や国際理解に関するさまざまなプログラムを用意しています。協定校への留学は、本学と学生交換協定を結んでいる海外の大学に1年以内で留学できる制度で、交換留学と派遣留学があります。交換留学は本学に授業料を支払うことで留学先の授業料が免除されますが、派遣留学は留学先の授業料を負担する必要があります。ただ、いずれも休学せずに留学できますし、宿舍の斡旋や留学中のサポートが受けられます。海外短期研修は、夏季休暇や春季休暇を利用し、海外の研修先で短期間の研修を受ける制度です。外国語による実践的なコミュニケーション能力を磨き、グローバル社会への適用力を養うことを目的とします。海外インターンシップは、夏季休暇や春季休暇を利用し、海外における体験型インターンシップを実施する制度です。海外での就労体験を通して、外国語によるコミュニケーションを磨くとともに、その国の文化、社会、経済の理解を深め、国際的視野を広げることを目指します。派遣期間は2～3週間を予定しています。

協定校一覧（一部）

レスター大学、キール大学、ノーサンブリア大学、ローマ大学トルヴェルガータ大学、ウィーン大学、ロッテルダム応用科学大学、リール大学、レンヌ第2大学、ウメオ大学、ヴロツワフ大学、トムスク国立大学（以上、欧州）、エディス・コーワン大学、マッコーリー大学、ニューカッスル大学（以上、オセアニア）、ウィスコンシン大学グリーンベイト校、ニューヨーク州立大学オニオンタ校、マーレイ州立大学、セント・メアリーズ大学、レジャイナ大学（以上、北米）、ソウル市立大学校、チュロンコン大学、タマサート大学、国立台湾師範大学、国立東華大学、国立清華大学、首都師範大学、華南理工大学、マラヤ大学、マレーシア国民大学（以上、アジア）

本学からの留学生

高校生のみなさん、 留学に興味はありますか？

2023年度交換留学生

佐々木 唯衣 さん（2022年度入学）

留学先：サウスイースタン・ノルウェー大学（ノルウェー）



私は中学・高校生の頃から海外に憧れがあり、いつか留学してみたいと思っていました。大学2年生のとき、都立大の交換留学の制度を利用して、ノルウェーの大学に行くことができました。留学を志望した一番の理由は、「異なる言語や文化のなかで暮らしてみたい」という思いでした。もともと自然教育にも興味があったので、その分野を学べるノルウェーを選びました。実際に行ってみると、語学や生活面で自分の思い通りにいかないこともたくさんあり、つらくて日本に帰りたくなることもありました。でも、現地で出会った友達たちに支えられて、最後には「大変だったけど、本当に楽しかった」と思えるようになりました。大学生になると、高校のときとは違って、自分で主体的に動きやりたいことにチャレンジできます。私にとってはそれが「留学」でした。英語をツールにして異なる国の人々とコミュニケーションをとったり、知らない土地を訪れたり、たくさんのお会いがありました。留学を通して、「自分はどんな人間なのか」「これから自分がどうありたいか」を考えるきっかけにもなりました。自分の当たり前が通用しない環境で生活するのは、とても貴重な経験で、自分の世界を広げる素敵なチャンスです。きっとみなさんの将来の選択肢を増やすことにもつながると思います。もし、都立大での留学に少しでも興味があったら、ぜひ挑戦してみてください！

本学への留学生

国際ビジネスでの活躍を 目指して！

経営学コース

銭 世芳 さん（2022年度入学）

出身国：中国



日本に来た理由：私は若い頃にアニメを見始め、日本の文化に非常に興味を持つようになりました。特に、日本特有の考え方や思いやりに感動しました。

東京都立大学を選んだ理由：東京都立大学は、その実力と威信を兼ね備えた大学です。オープンキャンパスや学部のカリキュラムを通じて、多くの興味深い授業を見つけることができました。また、様々なサークル活動や国際交流プログラムも魅力的であり、これらの理由から東京都立大学を第一志望としました。

経済経営学部を選んだ理由：日常生活で会う様々な業務や事業に興味があり、将来自分で起業することが魅力的だと思ったため、経済経営学部を選びました。勉強を通して、自分の人生の努力の方向性を見つけたいと思います。また、多くの企業やビジネスについての理解を深める講義やゼミを通じて、幅広い専門知識を身につけ、分析能力と問題解決能力を磨きながら成長できていると思っています。

大学生活について：1年生のとき柔道部に入部し、普段の練習や学園祭を通じて、日本の大学部活の強い連帯感を体験しました。学業においては困難も多かったですが、友人たちの支えがあって最後まで頑張ることができました。現在は国際交流サークル「HANDs」の幹部として活動しており、その活動を通じて日本だけでなく世界中の文化を学び、異文化交流のスキルを磨いています。将来は国際的な視点を持ち、ビジネス界で活躍したいと考えています。

国際副専攻

本学では、2015 年度入試から、国際社会で活躍する意欲あるものを募集する「グローバル人材育成入試（AO 入試）」を実施しています。国際社会の第一線でリーダーシップを発揮して活躍できるグローバルリーダーの育成に取り組んでいます。グローバル人材育成入試で入学する学生は、主専攻の科目と並行して、海外留学が必修のカリキュラム「国際副専攻」の科目を履修します。主専攻の専門知識やスキルを身につけるとともに、確かな語学力やコミュニケーション力を養い、多様な文化に適用可能な実行力を身につけます。さらに、必修である海外留学を通して、多様な文化や価値観に触れ、より広くグローバルな視野を獲得します。（なお、「国際副専攻」の科目は他の入試区分で入学する学生も履修可能です。）

国際副専攻の標準的な履修モデル

（2年次後期～3年次前期に留学する場合）

		大学院へ進学		グローバル社会で活躍	
		本学学士課程（主専攻）		国際副専攻	
4 年次	後期	専門教育科目群 （海外取得単位の認定もあり）		Advanced Seminar Academic Discussion Skills Advanced Academic Writing Internship	
	前期				
3 年次	後期	1 年間の留学 海外大学での科目等を履修・単位取得			
	前期				
2 年次	後期	専門教育科目群 基礎科目群 教養科目群 基礎科目群		Foundation Seminar Academic English Academic Writing Globalization and Japan	
	前期				
1 年次	後期				
	前期				

アカデミック・アドバイザーによるサポート体制

Student Interview



経営学コース 大西 柚歩 さん（2023 年度入学）

私が国際副専攻を志望した理由は、学部の専門科目を学びながら副専攻で得意な英語力を伸ばし、海外留学を経験できるからです。

国際副専攻では留学が必修なので、入学当初から目標とスケジュールをたてて計画的に学修、学校生活を送ることができます。授業のテーマは多岐にわたり、それぞれの分野を専門としている先生方からの講義は大変興味深いものでした。また、世界の様々な事例を取り上げた発展的な内容で行われるディスカッションやプレゼンテーションでは、友達の英語力に圧倒され、刺激を受けることが多々ありました。なにより国際副専攻で出会った多様なバックグラウンドを持った友達は、私の大学生活に彩りを与え、楽しませてくれています。

国際副専攻の授業を履修することで必ず将来の可能性や選択肢が広がると思っています。自分の限界を決めず、積極的に挑戦してみましょう。自分が将来世界で活躍している姿を想像し、全力で頑張ってください！

キャリア教育

本学では、キャリア教育の体験型科目として、大学生活の早い時期に履修できる現場体験型しごとと研究（実習）を実施しています。前期授業期間に事前学習（全 3 回）を行い、実習先の事前調査やグループワークに取り組んだうえで、夏季休業期間に 5 ～ 10 日間の現場実習を行います。学生が就業体験に参加することで、大都市の抱えるさまざまな課題や自分自身の課題について認識を深め、これらの課題に主体的に取り組む能力や社会人として必要な基礎的なコミュニケーション能力などを自ら要請することを目指します。東京都庁やその関係団体、都内の区や市、企業などバラエティに富んだ実習先の充実度は本学ならではのものです。

事前学習

4 月（第 1 回）6 月（第 2・3 回）

- 【第 1 回】プログラムの目的、事前調査方法
- 【第 2 回】事前調査結果のグループワーク
- 【第 3 回】社会人マナー、成果報告書の執筆方法

現場実習

8 ～ 9 月

大都市東京での現場実習
（東京都、東京都の関係団体、特別区、市、企業・その他法人）

成果報告書の執筆

8 ～ 9 月

成果報告書の執筆・提出
実習先での体験を振り返ることで、「大学生活の充実とキャリア形成」に繋がります。

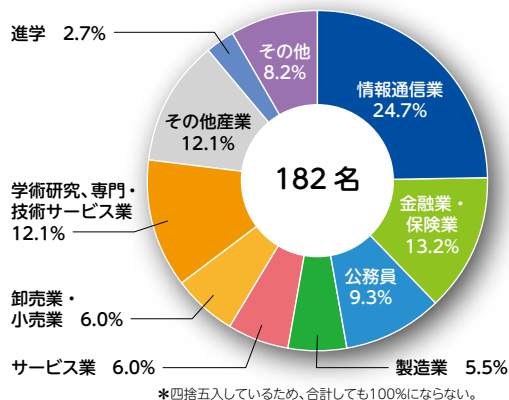
Student Interview



経営学コース 山田 真鈴 さん（2022 年度入学）

当時、私はまだ将来やりたいことが決まっておらず、また働くことに対するイメージも漠然としており、そろそろ就活が始まるというのにそれに備えた準備ができていないままでした。そのため、実際に社会に出て働くことを体験し、働くイメージを具体化することで、自分のやりたいことを見つけるきっかけを作りたいと考え、現場体験型しごとと研究（演習）に参加しました。実習先は、びあ株式会社の HR 創造部でした。5 日間の就業体験では、本社での実習、神宮外苑花火大会での報道関係者受付の対応業務、他大学のインターン生と企画・立案・プレゼンのグループワークを行いました。特に強く印象に残っているのはグループワークです。企画を提案し、深めていくことの楽しさがわかったのと同時に社員の方のフィードバックにより自分の強みや弱みがわかり、とてもいい経験となりました。この就業体験を通して、今後自分に必要となってくるスキルが明確になり、自分が将来したいことのイメージが少し掴めました。就活について考える上で、この就業体験はとても貴重な体験となりました。

卒業後の進路



主な就職・進学状況

(2025年3月卒業生実績) *法人格省略

JR 東日本 / KPMG FAS / NTT ドコモ / NTT 東日本 / PwC コンサルティング / SMBC 信託銀行 / TIS / あいおいニッセイ同和損害保険 / アクセンチュア / アビームコンサルティング / イオンクレジットサービス / インテージ / オービック / サイバーエージェント / トーマツ / メットライフ生命保険 / あずさ / 伊藤忠商事 / かんぽ生命保険 / 京セラ / 三井住友海上火災保険 / 三井住友信託銀行 / 三菱自動車工業 / 長谷工コーポレーション / 大和証券 / 第一生命保険 / 日産自動車 / 日立システムズ / 日立ソリューションズ / 本田技研工業 / 損害保険ジャパン / 日本 IBM / 日本政策金融公庫 / 日本電気 / 楽天銀行 / 明治安田生命保険 / みずほフィナンシャルグループ / 公正取引委員会 / 金融庁 / 独立行政法人統計センター / 東京国税局 (国税庁) / 東京都庁 / 群馬県庁 / 横浜市政府など

進学先: 東京都立大学大学院 / 東京大学大学院 / 一橋大学大学院など

島村 勇輝 さん (2019年3月卒業)

勤務先 日産自動車株式会社

グローバル購買部門でバイヤーとして世界中から自動車部品の調達をしています。日本だけでなく他拠点の設計・開発、経理や原価部門等の様々な部署間とサプライヤーの調整役を担い、世界中の新車ソーシング活動に寄与できることがやりがいです。

在学時は主に組織や経営戦略に興味を持ち体系的な理論や考え方を学びました。その中で経営学は「企業活動の現場で理論が実践できるのか」が重要であることに気づき、演習では海外でのフィールドワークを通して最前線の企業マネジメントを体感しました。また経営学で学んだことは学内外での様々な活動でも大いに役立ち、双方から会得したリーダーシップ論やマネジメント論は現在の仕事を選択した大きな要因になりました。

経済経営学部では講義・演習やインターンシップ等のプログラムでこうした「生きた経営学」に触れる機会が多く用意されており、在学中・卒業後問わず必ず役立つ学問を学べる学部だと思います。



廣岡 純 さん (2021年3月卒業)

勤務先 キグナス石油株式会社

東京都立大学では沢山の「出会い」が待っています。気の合う友人や尊敬出来る先生はもちろん、興味を引く学問や面白い知識と出会うことが出来ます。私自身、今現在は石油元売りというガソリン等のエネルギーを日本全国に流通させる仕事をしながら、大学で始めたアメフトを社会人チームで続けています。このどちらも大学での出会いをきっかけに始まったものです。

学部ではビジネスイノベーションのゼミに所属しており、スポーツビジネスのビジネスモデルの研究を行っていました。米国の大学スポーツの予算が日本の大学スポーツと比べて桁違いに大きく、スポーツビジネスでいかにお金が動いているのかに興味を持ったのがきっかけです。スポーツ団体が活動する上で必要不可欠なお金の集め方が、日本と米国でどれだけ違うのかを調べ、卒業論文としてまとめました。

我々の日常生活の中に隠されたビジネスを面白いと感じたことが、石油のようなインフラ業界を志望したきっかけのひとつです。東京都立大学での「出会い」が皆さんの人生をより良いものにすることを願います。



大学院 経営学研究科 Graduate School of Management

【博士前期課程】入学定員：50 名
学位：修士 経営学 (MBA)、経済学、ファイナンス

【博士後期課程】入学定員：5 名
学位：博士 経営学、経済学

首都東京には、我が国を支える主要な大小の企業が集積し、新しい企業を創業していく潜在力があります。それを現実の活力に転換するためには、組織を動かす高度な能力を有する経営管理者・起業家の養成が欠かせません。また、経済活動の仕組みも日々変化の中で、ビッグデータの蓄積とともに高度な経済学やファイナンスの専門的知識を用いた経済分析や金融リスク管理などが求められています。経営学研究科では、これらの社会的要請に応えるために高度な研究水準を維持し、その成果を博士前期課程および博士後期課程において学術的もしくは実践的な教育に反映させていきます。特に、博士前期課程では経営学・経済学・ファイナンスの各分野に教育プログラムを設置しています。

経済と経営を学び、データと論理で世界の未来を拓く

経済経営学部では、私たちの暮らしや社会の基盤となる「経済」と、社会をダイナミックに動かす「経営」について、基礎から応用まで幅広く学ぶことができます。経済学は、一見すると複雑な経済現象の背後にある論理を、過去から現在に至る経済の動きを分析する視点と、現代のデータや理論をもとに将来の経済動向を推測する視点の両面から明らかにする学問です。消費者や企業の行動、国家間の経済関係や国際経済の動向を、歴史的背景と現代的分析の両方から深く理解し、社会の未来を多角的に見通す力を養います。一方、経営学は、戦略論、組織論、財務、会計、マーケティングなど、さまざまな角度から企業活動を分析し、その本質を探究する学問です。社会との調和を意識しながら新たな価値を創造し、持続可能な社会の発展に貢献できるリーダーシップを育みます。こうした学びを通じて、現代社会が抱える複雑な課題に柔軟かつ論理的に向き合い、問題解決に必要な判断力や創造力を培います。

本学部では、学生一人ひとりの成長をきめ細かく支援するため、少人数教育を重視した学習環境を提供しています。講義では、学生の理解度や関心に応じて丁寧な指導を行い、双方向のコミュニケーションを通じて主体的な学びを促進します。さらに、演習（ゼミ）では担当教員のもと、特定のテーマに深く取り組み、経済・経営に関する実社会の課題について考察します。文献講読、ディスカッション、プレゼンテーション、共同研究など多彩な学びを通じて、思考力や表現力を鍛えます。教員との距離が近く、仲間と切磋琢磨できる環境の中で主体的に学び、多様な意見を尊重しながら共に課題解決に挑む姿勢が養われます。この姿勢は、現代社会で求められる重要な資質となっています。

私たちの社会は、グローバル化と情報技術の発展により、以前に比べて複雑化した国際課題に直面しています。さらに、誰もがアクセス可能な多様なデータにより、異なる文化や価値観を持つ人々と協働し、主観に頼らず、客観的な証拠（エビデンス）に基づいた意思決定や論証を行う力が、これまで以上に重要となっています。経済や経営に関する膨大で多様なデータを適切に分析し、エビデンスに基づいた意思決定を行う能力は、国や企業の成長を支えるうえで不可欠です。データを通じて人々の行動の背後に潜むパターンを明らかにし、数値に隠された意味を把握する力は、未来を予測し、的確な判断を下すための強力な武器となります。本学部では、経済学と経営学の知識を基盤に、数理的な素養やデータサイエンスのスキルを高める講義・演習を提供しています。学際的な視点を養いながら、データと論理に基づく確かな意思決定ができる人材の育成に力を注いでいます。

さらに、グローバルな課題に対応する能力を育成するため、経済学と経営学の基礎と実践を日本語と英語で学べる、国際的な視点を養うことに特化した国際金融人材育成プログラムを開講しています。このプログラムでは、国際金融に関する理論と実務を体系的に修得し、グローバルな金融市場でリーダーとして活躍できる人材を育成します。グローバル化が進むなかで、国際金融の動向は日本経済や企業経営にも大きな影響を与えており、その理解は今後ますます重要性を増していきます。理論と実証の両面から国際金融を深く学び、英語を活用して国際社会で自信を持って活躍できる力を身につけます。

経済経営学部で、社会の複雑な課題に果敢に挑み、データと論理を武器に未来を共に切り拓きましょう。皆さんの知的好奇心と行動力が、社会に新しい価値を生み、持続可能な未来を支えることを、私たちは心から信じています。



経済経営学部長

中山 厚穂

Akio Nakayama

入試

入試に関する詳細については、必ず公式の学生募集要項でご確認ください。
募集要項は以下の URL、または QR コードのページからご覧いただけます。

<https://www.tmu.ac.jp/entrance/faculty.html>



学費（予定額）

2025 年度の学費は以下の通りです。なお在学中に授業料が改定された場合、改定後の金額が適用されます。

入学料：都民 141,000 円、都民外 282,000 円

授業料（二期に分納）：年額 520,800 円

※ 2024 年度より、都内居住者を対象に授業料全額免除制度を導入しています。詳細は、本学学生課のウェブサイトをご覧ください。

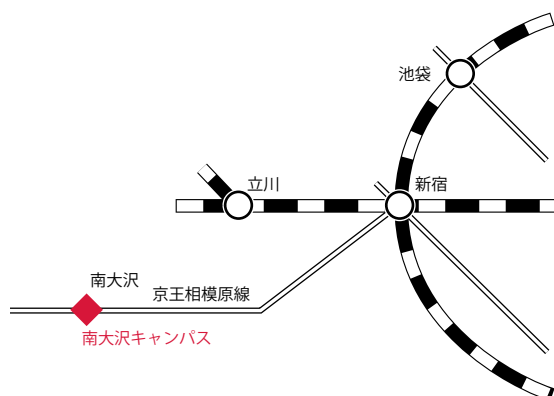
オープンキャンパス

2025 年度のオープンキャンパスは、来場形式と WEB 形式で実施します。

来場型オープンキャンパス 8月9日（土）、8月10日（日） プログラム：経済経営学部ガイダンス、学生ディスカッション等
※事前予約制（予定）です。開催中止及び実施方法、内容等に変更が生じる場合があります。詳細は本学ウェブサイトをご確認ください。

WEB オープンキャンパス 本学ウェブサイトにて公開 プログラム：経済経営学部ガイダンス等
オープンキャンパスの詳細はこちら https://www.tmu.ac.jp/entrance/faculty/open_campus.html

アクセス



最寄り駅から約 5 分

京王線相模原線「南大沢」駅改札口から徒歩約 5 分
* 改札口を出て右手に緑に囲まれたキャンパスが見えます。

お問い合わせ窓口

東京都立大学管理部 経済経営学部教務係

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

Email: biz@jmj.tmu.ac.jp

TEL: 042-677-2303

(平日 9:00 ~ 17:00。土・日・祝日は休み)

学部関連等の情報は、ホームページにて随時更新してまいります。

<https://www.biz.tmu.ac.jp>



東京都立大学